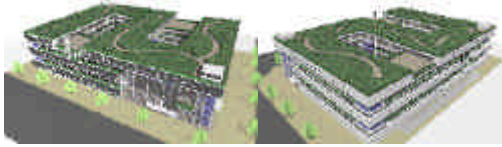
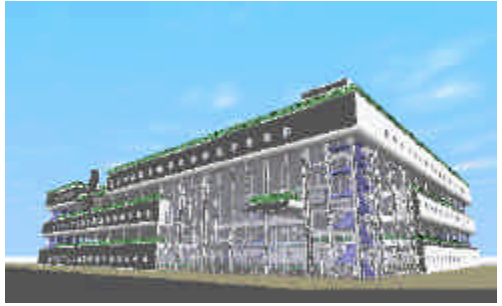


立川市新庁舎設計者選定競技



チューブが生み出す多様性

幅16.5m、高さ5mの断面をもつチューブによって建物は構成される。

チューブは均質断面を持ち、PC化を図ることにより低コストが可能である。

チューブは壁、屋根、床ともに2重構造とする。周辺の騒音を遮断し、良好な音環境を確保する。2重壁はITや設備スペースとして機能する。

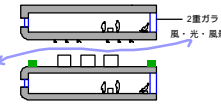
チューブを曲げることによって、ホールやオープンスペースなど多様な空間が発生する。

上下のチューブはスラブを共有せず独立して存在し、縦方向のコアで接続される。

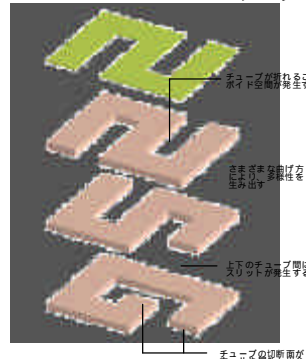
上下のチューブを独立させることでスリットが生まれ、設備スペースや緑化スペースとして機能するほか、風や光をホールに取り込む。

チューブの所々に開口部を設ける。開口部はアトリウムや屋外などに遭遇し、利用者のシークエンスに変化をあたえる。

チューブ断面



チューブ構成



チューブの屈折・切断によって生まれる多様な空間



武蔵野の自然による緑化計画

自然の雑草や雑木を見直し、緑化部分に採用する。自生する植物のため、管理負担が軽減。昆虫や鳥などに触れ合うことができる。

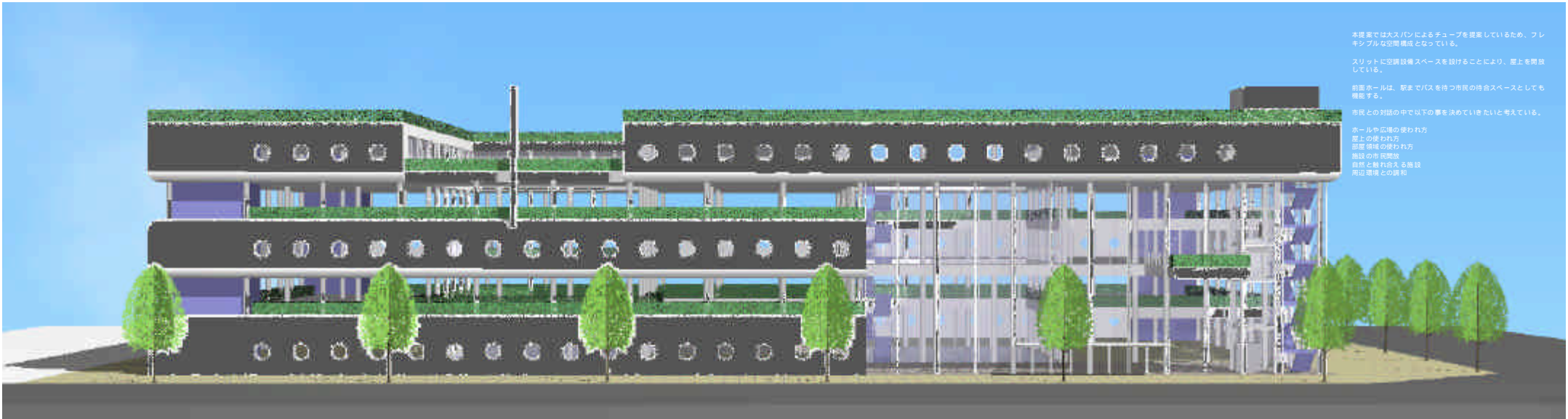


ホール

夏場は水を流し涼感を演出するとともに打ち水により蒸気効果が生まれ、気温を下げる。水を止めれば公共のホールとして市民開放できる。



設計者選定競技登録番号
(170811 - 1229)



本提案では大スパンによるチューブを提案しているため、フレキシブルな空間構造となっている。

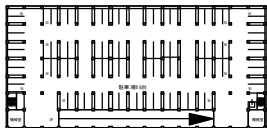
スリットに空調設備スペースを設けることにより、屋上を開放している。

前面ホールは、駅までバスを持つ市民の待合スペースとしても機能する。

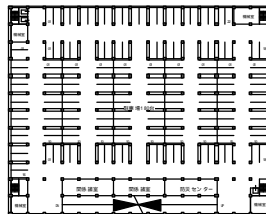
市民との対話の中で以下の事を決めていきたいと考えている。
ホールや広場の使われ方
屋上の使われ方
副都心部の使われ方
地域の市民開放
自然と触れ合える施設
周辺環境との調和

PLAN S = 1 : 1000

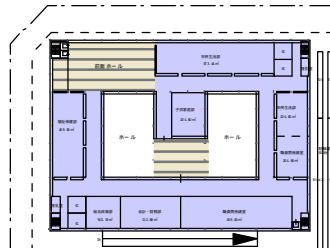
建築面積 5997㎡
延床面積 21500㎡
庁舎部分 14700㎡
駐車場他 6800㎡



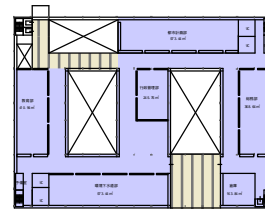
B2F PLAN



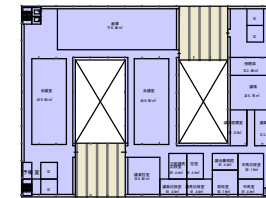
B1F PLAN



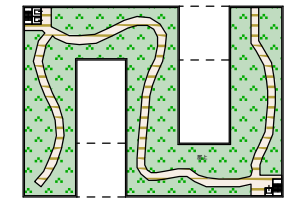
1F PLAN



2F PLAN



3F PLAN



Rf PLAN